



〒975-0031
福島県南相馬市原町区錦町一丁目 30 番地
TEL:(0244)26-1315
FAX(0244)26-1318
E-mail:sousou.kyouiku@pref.fukushima.lg.jp

令和7年度 ふくしまの未来をひらく読書の力 プロジェクト
読書活動支援者育成事業相双地区研修会

- 日 時：令和7年7月30日（水）10：00～15：40
- 会 場：福島県環境創造センター環境放射線センター
- 内 容：①講話『読書の始まりは読まないこと』、「フラグフレーズデモンストレーション」、「フラグフレーズの実践」
③朗読『はしれディーゼルきかんしゃデーデ』、講話『デーデとともに14年～いま、私が思うこと』
- 講 師：①作 家 竹内 真 氏
②童話作家 すとうあさえ 氏
- 参 加 者：32名（教員6名 学校司書15名 図書館司書3名 読み聞かせ団体3名 行政職員4名 一般1名）
- ※ 当日発生したカムチャッカ半島地震による津波警報が発令されたため、フラグフレーズのデモンストレーションまで実施し、以降のプログラムは中止の措置を取った。（11：30まで実施し、以降は解散）

ビブリオバトルは、誰でも開催できる本の紹介コミュニケーションゲームです。

「人を通して本を知る。本を通して人を知る」をキャッチコピーに全国に広がり、小中高校、大学、一般企業の研修・勉強会、図書館、書店、サークル、カフェ、家族の団欒などで、広く活用されています。

福島県教育委員会でも中学生や高校生の不読率を下げるためのツールとして、ビブリオバトルを取り入れています。今年度で11回目を迎える県大会を目指して、相双教育事務所管内でも9月20日には地区予選会を開催いたします。

今回の研修会では、このビブリオバトルに参加するだけでなく、自身の小説の題材として取り上げている作家の竹内真氏がビブリオバトルへの思いや、自身が考案したフラグフレーズという読書会ゲームについてお話してくれました。

◆講話「読書の始まりは読まないこと」

- | | |
|----------------------------|-------------------|
| 1 不読率を下げるための研修会 | 2 ビブリオバトルの失敗例 |
| 3 そもそもビブリオバトルで不読率は下げられるのか？ | 4 ビブリオバトルを成功させる方法 |
| 5 今は競合相手が多い読書 | 6 フラグフレーズの効用 |

◆フラグフレーズデモンストレーション

「フラグフレーズ」は、竹内さんの小説、図書館シリーズに登場させようと考案されたゲームで、高校の図書館でビブリオバトルが始まったら、一人の少年がそれに飽き足らずに考案したという設定になっております。

●フラグフレーズの進行の流れ（自由本）

【オープニング】

【第1ステージ・第一印象】

【第2ステージ：紹介役紹介】

【第3ステージ：フラグ質問①（進行役）】

【第4～8ステージ：フラグ質問①～⑤（質問役…紹介役、見学の方）】

【最終ステージ：出典紹介】

【エンディング】

フラグフレーズの特徴は、本を読み込んでいなくとも参加できる読書会ゲームであるということです。各ステージごとに投票していくため、多くの参加者が認められる場面があります。また、フラグ質問を通して、考えたり、話し合ったりすることでいつの間にか紹介された本に興味を持ってしまいます。この興味こそが読書への意欲付けになるのです。



© TAKEUCHI MAKOTO



☆研修を通しての質問や振り返り

- ビブリオバトルについてのモヤモヤをハッキリお話して下さってスッキリしました。私が心の中で思っていたことそのままだったので。
 - 現在、学校司書をしています。学校で読書推進の方法を話し合う中、先生方からビブリオバトルについて意見が出たところでした。私の意見として、竹内先生と同意見で、とても納得。そういう意見を学校で言える状況ではないということも現実です。ですが、子供たちには楽しみながら読書に触れてほしいと思っており、フラグフレーズを紹介し、広めていこうと思っています。
 - 息子は小説や物語を好まないで、ビブリオバトルのようなものに興味を持ちません。そのような子も多いのではないかと思っていたので、フラグフレーズにとっても興味深く講話をきくことができました。北風と太陽の話のたとえ、とても腹おちしました。
 - ビブリオバトルのハードルの高さを常々感じていたので、同じ考えの人がいてホッとしました。学校でやるようにすると、どうしても、かたくなりがちだなと思っていました。フラグフレーズであれば肩の力を抜いて参加できそうな気がします。
 - 読まない子にどう本・読書に親しんでもらえるか日々悩むことがあります。フラグフレーズ、遊び感覚で実践できると思い、勉強になりました。
 - ビブリオバトルは楽しい催しですが、人によっては読書を強制されることになるため、今後の読書へのモチベーションは、結果楽しかったから上がったもあればトラウマにもなってしまいうな、と共感しました。
 - 竹内先生のお話、楽しかったです。ビブリオバトルに対するモヤモヤが晴れやかになりました。（子供達、絶対緊張するよね……かえって本が嫌にならないかな……）とずっと思っていました。小学校でやるには、子ども達は幼いので、本やフレーズをお互いナイショにするのは難しそう……。楽しくないと本を読まないと思うので、今日のお話はぜひ参考にしたいです！
 - ビブリオバトルは読まなければできないとの言葉に共感しました。「読書の始まりは読まないこと」の言葉が魅力的で参加させていただきました。講話がとても楽しかったです。
 - ビブリオバトルの実施方法についてについては、自分自身も疑問に思っていたので、納得の内容でした。何のためにやるのか、何がしたいのかを考え、できるだけ楽しくできたら、ビブリオバトルももっと普及するのかなとも思いました。
- この他、参加者の皆さんからの質問には、竹内さんの note にて回答をいただいております。下記のアドレスにアクセスしていただき、ご覧ください。

◆ 竹内真氏 note : <https://note.com/kurobey286/n/n91e165a6ea39>

☆ 読書習慣を付けるためにどんなことをしているのか

【様々な仕掛け、工夫】

- 学校では、朝の読書の時間に読み聞かせをしている。その他、ボランティアによるブックトークを行っている。
- 強制したり、押しつけがましかったりすると受け入れてもらえないと感じているので、無理のないように読書の面白さを伝えていきたいと思います。
- 図書室の間口を広げ、敷居を下げることは考えています。
- とにかく読書が楽しいと思ってもらえるような工夫をしています。今は、小学生でもゲームやYouTubeにたくさん時間を使っている感じです。学校司書の立場で、読書のために費やせる時間の確保を頑張っています。
- 学校での一斉の読書タイム／夏休み、冬休みの本の貸し出し。

【自分自身の読書習慣のために】

- ある程度の面白さは保証されているし、ハズレが無いという理由で、オススメの本やベストセラーを読んでみる。南相馬市立図書館等の素敵な環境で本を読む。
- 朝読書の時間に生徒と一緒に本を読んでいます。読んだ本を教室に置いて交流をしている。
- 読了後の胸の高なる気持ちを、子どもと語らって、お互いに読書意欲を高めたり、寝る前に30分ほど読書をしたりしています。
- 本は夢や希望が発見され、本はお友達だと思っています。
- とりあえず枕元に本を積んでいる。近くにあれば手に取る。
- 自分があまり本を読んでこなかったため、我が子に読み聞かせをすることで、一緒に親しむようにしています。

